

グラビア写真説明

平成29-31年度 舟入川橋上部工事

高知東部自動車道は、高知県東部地域と高知市との県内の広域的交通の高速性・安全性を確保するとともに、現道国道沿線地域の生活環境の改善、地域活動の活性化などの向上を図る事を目的とした事業であります。

本橋梁は北から順に舟入川、市道、国道195号、とさでん交通と交差しています。このような施工条件から全5径間のうち3径間を夜間の送り出し架設で施工しました。

支点付近には二重合成構造を採用しており、箱桁内の下フランジ部分にコンクリートを打設しています。発注時の計画では合成床版の側型枠高さが床版厚さでしたが、景観性の観点から壁高欄高さに変更されました。（熱海 晋）

東広島バイパス海田高架橋2号橋鋼上部工事

国土交通省中国整備局広島国道事務所管内の東広島バイパス計画延長9.6kmのうち、1号橋（橋長230.0m）に続き2号橋の（橋長174.0m）工事となります。1号橋とほぼ同程度の現場条件において、工事用地内の作業及び県道両側上下線の上空架設作業など昼夜間併用で、特に夜間は県道の交通規制を繰り返しながら、トラッククレーン+ベント工法で架設を行いました。

新型コロナウイルスの対策を発注者と協議しながら令和2年4月に無事故・無災害で完工しました。（白井 英志）

福岡208号 筑後川橋上部工（P4-P8）工事

筑後川橋は、有明海沿岸道路の筑後川上に位置し、2連のアーチで筑後川を跨ぐ橋長450m、最大支長170mの鋼4径間連続（2連）単弦中路式アーチ橋です。

橋梁形式としては、日本で初めて1本のアーチリブが支点上で2本に分岐する構造を2連のアーチ橋として施工されました。

本橋は、上流に昇開橋、下流に新田大橋、河川中央部にデ・レイケ導流堤があります。水平基調で緩やかなアーチの曲線形状により、河川を軽やかに渡っている軽快感があり、広々とした周辺景観に調和し、デ・レイケ導流堤上の橋脚高を低くでき圧迫感を軽減できる“鋼アーチ橋”として施工されました。また色彩面でも、周囲の景観への溶け込みを考慮し、塗装色は夕日に美しく染まる淡い桜色です。

本件は、製作～架設までの工事であり、架設は基本的にはクローラクレーン+ベント工法を用いていますが、P5-P6間は航路がありベントの設置位置が限られるため、P6-P8間の桁上にP5-P6径間の桁を地組み立てし、特殊な設備を使用した「送出し工法」です。

本工事は平成28年3月より着手し、令和2年8月に無事故・無災害で引渡し検査が完了しました。本工事により、福岡県から佐賀県への延伸が実現となり、有明海沿岸地域のさらなる「陸海空の広域交通ネットワーク」が形成され、未来物流の効率化、地域産業の活性化が期待されます。（田頭 正臣）

県単道路改良（幹線）工事（(仮称)豊年橋上部工）

本路線は、鎌ヶ谷市初富を起点に印西市安食を終点とする延長約31kmの幹線道路で、このうち鎌ヶ谷本塾線バイパスは、国道464号の印西市萩原を起点に、成田安食線の栄町安食地先を終点とする延長約4.5kmを整備しております。

豊年橋は、一級河川の長門川を跨ぐ、3径間連続少数鉄桁橋の製作・架設の架け替え工事であり、120t吊クローラクレーンを使用して架設を行いました。架設位置が河川上のため、橋軸方向に平行して仮橋が設けられており、主桁は仮橋上で地組立てし、クレーン2台による相吊りにて架設を行いました。

同区間の現道部は、幅員が狭く急カーブ区間も連続し、車同士のすれ違いが困難な状況であり、救急搬送時は患者への負担軽減から市道を迂回している現状となっていますが、整備することで走りやすい道路となり、歩車道分離による歩行者の安全性の向上が計られます。また、災害時等の救援・救助活動でも円滑で迅速な移動が可能となるため、地域防災力の強化も期待されます。（前山 裕人）

グラビア写真説明

(仮称) 竹芝地区再開発計画【港歩行者専用道第8号線】架設工事

本計画は、東京都の「都市再生ステップアップ・プロジェクト」の一つであり、(仮称) 竹芝地区開発計画の一環として、浜松町駅～竹芝ふ頭までを直結する歩行者デッキの内、浜松町駅から首都高を跨ぎオフィスタワーまでを繋ぐ歩行者デッキが本橋となります。

(※オフィスタワーは、「東京ポートシティ竹芝」として2020年9月14日に開業しました。)

本橋の構造は鋼床版箱桁ラーメン橋となっていますが、一番の特徴が普通の箱桁では無く【船底型】の五角断面となっており、それを支える支柱が六角断面・テーパ付きと構造が非常に特徴のあるデザインとなっています。(首都高上空は通常の四角断面)

本工事は、鹿島建設(株) 東京土木支店より製作・架設工事を受注し、2020年3月に工事完了となりました。

(白倉 進)

熊本都市計画桜町地区第一種市街地再開発事業施設建築物新築工事

桜町とは日本三名城の一つ熊本城の城下町であった武家屋敷町の一角が明治41年に二の丸の一部に架かる桜橋にちなんで桜町と命名されました。この桜町地区を含む、老朽化した熊本交通センター(昭和44年開業) 一帯の再開発が、熊本桜町再開発株式会社により施行され、令和元年(2019年) 9月に再開発施設が開業しました。これにより百貨店及びバスターミナルの再整備はもとより、商業、ホテル、住宅、公益施設(熊本城ホール) 等の都市機能が導入されました。

2016年4月の熊本地震で耐震性を中心に設計の見直しが行われ鉄骨工事の着工が遅れましたが、高層棟にはタワークレーンを2基と低層棟にはクローラクレーン2台で工事を進め2019年9月14日に熊本の新ランドマークとして新しい商業施設「SAKURA MACHI Kumamoto (サクラマチ クマモト)」となってグランドオープンをしました。

(吉田 俊一)